

公益社団法人日本動物学会 令和 4年度中部支部大会（松本大会）開催報告

2022年11月26日（土）と27日（日）の2日間の会期にて、日本動物学会中部支部大会を対面（信州大学松本キャンパス）とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催いたしました。まず、本大会にご参加された多くの皆様に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックもあり、対面での開催は3年ぶりとなりました。しかしながら、まだ完全に終息したとは言えない状況下であり、懇親会を開催することはできませんでしたが、短時間・小グループで親睦を深めていただけたのではないかと思います。

今年度は、日本動物学会としては初の試みとなるクラウドファンディングが中部支部主催で実施され、その寄附金を本大会に参加する高校生の旅費支援に充当させていただくこととなりました。多くの高校生に参加いただくことができ、柔軟なアイデアが盛り込まれた研究の成果を、若くエネルギーに満ちた活発なプレゼンテーションで披露いただきました。高校生の口頭発表が13題、学生（高専専攻科生・大学生・大学院生）の口頭発表が13題、一般口頭発表が3題、高校生ポスター発表が6題、学生のポスター発表が13題、一般ポスター発表が3題あり、2日目の午後には公開シンポジウム（後述）も開催しました。参加者は対面で115名、オンラインで北海道から沖縄までの広い地域から45名の合計160名でした。

公開シンポジウムについては、本大会の運営を担当した信州大・東城と山梨大・宮崎との議論の中で「信州・甲州らしさも含めた中部地区らしい企画ができないか？」との思いから、海なし両県ではあるものの「高山帯から深海までをカバーするようなシンポジウムにしてみよう」との運びとなりました。よく考えると、「日本の屋根」に喩えられる中部山岳があり、富山湾や駿河湾といった深海域までカバーできるのは中部支部の特徴ですし、山も海も互いに深く関わり合いながら独特の生態系が構築されておりますので、「日本列島の多様な動物たち：高山から深海まで」と題した企画とさせていただきます。講演は、高山帯を代表する動物として、笠原里恵氏（信州大・理学部）に「日本に生息するライチョウの遺伝的分化」という題で口火を切っていただきました。鈴木智也氏（京都大・地球環境学）には信州大在籍時に取り組まれた「山岳棲昆虫スカシリアゲモドキにおける高山型進化プロセス」という題で、高山帯への適応進化が複数の山岳で平行的に生じた研究を紹介いただきました。続いて、高山から亜高山帯へと少し標高を下げ、竹中將起氏（信州大・理学部）には、「厳冬域・上高地におけるニホンザルの生存戦略」と題して、最近のホットな話題でもあるニホンザルの魚食行動に関するNHK「ダーウィンが来た！」撮影クルーとの共同研究の成果を紹介いただきました。この後、フィールドを海へと移し、藤原義弘氏（JAMSTIC）には「深海のトップ・プレデターを探る」と題して、普段は観ることのできない深海で展開されている「食う-食われる」世界を迫力ある映像とともに紹介いただきました。最後に、しんかい6500などの潜水艇に実際に乗船して深海ヒモムシ類の進化・多様性に挑む現役大学院生である波々伯部夏美氏（東京大・理学系研究科）に「深海に潜むヒモムシの多様性と適応進化」と題したお話をさせていただきました。高山帯と深海は、近くてもアクセス至難の世界ですので、そうしたフィールドで展開されたいずれの研究も興味深く、また演者の皆さんが画像・動画を駆使してご紹介下さいましたので、未知なる奥深い世界を垣間みることができました。

大会会期中、キャンパス内の信州大・附属中央図書館では企画展「明治・大正期 信濃博物学の夜明けと長野県師範学校 -矢澤米三郎とライチョウ標本を中心に-」を開催しており（信州大・大学史資料センター等主催）、大会参加者の皆さんにもご覧いただきました。100年以上も前に高山帯研究を牽引された矢澤氏にフォーカスした企画展で、一世紀前に採取されたライチョウ

ウ標本や高山植物標本そのものの展示や、これらの標本からの遺伝子解析研究など、公開シンポジウムとも関連する企画展をお楽しみいただけたのではないかと思います。

高校生発表と学生発表では、大会実行委員および中部支部役員に、研究内容やプレゼンテーションについて評価していただきました。高校生の発表では上位が僅差であったため、口頭発表・ポスター発表ともにそれぞれ4件を最優秀発表賞に選考しました。他の発表は優秀発表賞に選考しました。学生の口頭発表では上位2件に最優秀口頭発表賞、続く2件を優秀口頭発表賞に選考しました。学生のポスター発表では上位2件に最優秀ポスター発表賞、続く優秀ポスター発表賞は同点であったため3件を選考しました。

3年ぶりに対面での開催を実施したものの、大会後にコロナ陽性者が出てしまわないか？との不安を抱えながらの開催でした。幸い、高校生を含め大きな問題もなく無事に終えられたことに大会実行委員会として安堵しております。皆様の日頃の行動や健康管理のお陰と感謝申し上げます。

来年度の中部支部大会は、2023年12月上旬に三重大学(三重県津市)にて開催されることになりました。新型コロナウイルス禍が明け、より深く懇親を深められたらと祈念しております。

2023年2月13日

大会実行委員 東城幸治、宮崎淳一、竹中將起、笠原里恵、松本卓也、鈴木智也、谷野宏樹、浅見崇比呂

高校生発表表彰

最優秀口頭発表賞 4件

- O-03. 山崎 裕貴 (富山中部高校) ヒラメのストレスは光で緩和できるか
- O-04. 平野 隼介・山口 華奈・富崎 明花 (富山中部高校) ドクターフィッシュの認識方法について
- O-05. 勝野 将 (松本県ヶ丘高校) メダカの腹ビレ黒色化と婚姻色の関係
- O-13. 亀 允斗 (七尾高校) アオリイカの表皮に存在する色素胞に対するホルモンの作用: in vitro バイオアッセイ系による解析

優秀口頭発表賞 9件

- O-01. 上 心遙・平澤 拓実 (松本県ヶ丘高校) ウニの自己防衛の条件
- O-02. 橋本 昂賢・小松 千紘・中村 伊吹・金田 舞・平澤 拓実 (松本県ヶ丘高校) イトマキヒトデ及びクモヒトデの生態について —運動の規則性, 走光性に関する探究—
- O-06. 内坂 遼馬・加藤 楓也・田邊 彩花・中澤 舞 (松本県ヶ丘高校) 海綿動物の浄化作用と水温の関係
- O-07. 門脇 憂那・北原 凜乃・竹本 遥香・花村 怜海 (松本県ヶ丘高校) カイメンの浄化作用と光の

関係

- O-08. 渡邊 咲奈・降旗 百花・竹村 友那 (松本県ヶ丘高校) 二酸化炭素濃度及び酸素濃度がカイメンの再集合に及ぼす影響
- O-09. 田中 葉・百瀬 未菜・川口 智崇・阿久津 幸太・務台 陽水 (松本県ヶ丘高校) 周囲の環境の変化に伴うイソギンチャクの触手の変化について
- O-10. 中畑 慧琉・石原 実侑・遠藤 姫花・陳 奕冰 (松本県ヶ丘高校) 刺激に対するマダコの体色変化について
- O-11. 荒崎 優芽・栗林 英里・黒岩 啓人・金子 泰雅 (松本県ヶ丘高校) イソガニの食性と歩行の規則性について
- O-12. 矢口 遙香・市川 真帆 (松本県ヶ丘高校) 色の違いから推測するアカテガニのゾエア幼生の生息深度

最優秀ポスター発表賞 4件

- P-01. 村井 遥奈・佐々木 結夢・柴野 恭輔・橋本 健汰 (七尾高校) オオゴマダラは色覚を用いて赤系統のカランコエに訪花する
- P-02. 岡本 真奈 (七尾高校) オジギソウ (*Mimosa pudica*) の個体内の部位間での概日リズムの独立性
- P-05. 中沢 椋 (松本県ヶ丘高校) 環形動物「ウミケムシ」の生態調査&構造把握
- P-06. 北城 怜桜 (松本県ヶ丘高校) ヒトデの移動の方向と利き腕について

優秀ポスター発表賞 2件

- P-03. 宮入 大輝 (松本県ヶ丘高校) クロアゲハ5齢幼虫時における刺激に対する慣れ
- P-04. 稲葉 美希 (松本県ヶ丘高校) 地球温暖化における海水酸性化の海綿動物への影響

学生発表表彰

最優秀口頭発表賞 2件

- O-17. *野澤 怜温・萩原 仁・後藤 寛貴 (静岡大・理学部) 昆虫の形態形成における「ピン留め」機能の解析
- O-26. *端野 開都 (金沢大)・酒徳 昭宏・田中 大祐 (富山大)・田中 翔稀・一色 正 (三重大)・鈴木 信雄 (金沢大) 新規に単離されたMA3株によるアコヤガイ感染症に関する研究

優秀口頭発表賞 2件

- O-19. *岡 昂輝 (富山大院・理工・生物)・増岡 祐大 (農研機構)・前川 清人 (富山大・学術・理) ネバダオオシロアリの兵隊と兵隊型生殖虫における幼若ホルモンシグナルの役割
- O-20. *宮川 悟 (山梨大学) コイ科カマツカ類の系統と進化

最優秀ポスター発表賞 2件

- P-10. *高野二千佳 (山梨大・教育学部) ホトケドジョウ類の生態学的調査
- P-19. *鈴木 啓久 (信州大院・総合医理工)・竹中 將起・東城 幸治 (信州大・理・生物) 山岳に生息

するナガレエグリトビケラの系統地理学的研究

優秀ポスター発表賞 3件

- P-13. *藤原 克斗・花田 拓巳・當房 睦明 (富山大院・理工) 前川 清人 (富山大・学術・理) ヤマトシロアリの幼若ホルモン結合タンパク質 takeout 遺伝子の探索および発現解析
- P-15. *富樫 彩音 (富山大学院・理工・地球生命環境)・中町 智哉・松田 恒平・今野 紀文 (富山大学・学術・理学系) メダカの鰓に発現するカルシウム活性化クロライドチャンネル ANO1 の高浸透圧ストレスに対する発現応答
- P-17. *松本 雄貴・岡田 令子 (静岡大院・総合科学技術・生物) ウシガエル幼生および成体の脳におけるプロラクチン放出ペプチド mRNA 発現に及ぼす季節・温度の影響